



小林 紀夫  
(自民党・代表質問)

**将来を見据えた  
予算編成の考えは**

**問** 地方創生を掲げる中、東京圏への人口集中は一段と進んでおり、市でもこれまで以上に人が集まる取り組みを行う必要がある。

30年度は第6次総合計画の初年度であり、将来を見据え一歩を踏み出す重要な年である。その30年度当初予算編成の考え方を聞く。

また、自民党派の要望をどのように盛り込んだのか。

**答** 人口減少や少子・超高齢化が進行する中、持続的に成長し続けていくためには、人や企業から選ばれる高い都市力を備え、将来にわたる成長力を確保できるよう、積極

的な未来への投資を実行するとともに、持続可能な財政構造の確立に努めていく必要がある。

そのため、子育て・教育、健康・福祉、交通などの未来都市の実現に資する施策・事業に優先化・重点化を図るとともに、人づくりとまちづくりを一体的に進めることでまちづくりの好循環をより一層創出する予算とした。

要望のあった項目は、市が将来にわたり魅力と活力にあふれたまちづくりを実現するために重要な施策であり、不妊治療費助成の拡充や、地域療養支援体制の充実、LRT整備の推進や公共交通の充実・利用促進などに積極的に予算を計上した。



**その他の質問項目**

- ①子どもの家等事業の運営のあり方見直し②ソーシャルビジネス③長岡地区(豊かな自然の活用、うつのみや文化の森の活用)



今井 恭男  
(市民連合・代表質問)

**子どもの家等事業  
の課題 地域と連携し解決を**

**問** 子ども・子育て支援新制度において、子どもの家の制度や位置づけも大きく変わり、様々な課題が出てきている。子どもの家連合会と市の担当課で意見交換をし、課題の認識は一致しているが、担当課のみで解決できるものではない。

30年度予算に「子どもの家等事業に係るあり方懇談会」の設置が予定され、高く評価しているが、あり方懇談会の設置の目的や課題認識、目指すべき目標や方向性は。

**答** 子どもの家等事業は、子どもの家連合会と協力し、地域の教育力を生かした運営により成果を上

げているが、新たな課題が顕在化し、これまでの個々の課題に対する支援策では対応し切れない状況のため、29年度から子どもの家等事業の運営のあり方について、事業の全体的な見直しの検討に着手した。

あり方懇談会は、子どもの家等事業の安定した運営を継続できるよう、運営のあり方を抜本的に見直すため、学識経験者や子育てに携わる団体などから幅広く意見を聴取するものであり、目指すべき目標や方向性などは、この中で意見を聴取しながら検討していく。



▲子どもで活動する家もたち

**その他の質問項目**

- ①30年度施政方針・予算編成②LRT整備事業沿線住民説明会の実施状況と市所見及び事業推進の考え方など③所有者不明の土地・家屋発生抑制のための終活におけるエンディングノートの取り組み④災害時要援護者支援制度の取り組み状況



舟本 肇  
(自民クラブ・代表質問)

**世界を見据えた大谷  
の観光地づくりを**

**問** 市には全国に誇る観光資源である大谷があるがその認知度はまだ低い。30年4月から始まるデスティネーションキャンペーンは、認知度の向上や誘客のチャンスであり、大谷を世界へと羽ばたかせるためには、国内外の観光客に向け、また来たいと思ってもらえる観光地づくりが重要である。

世界の大谷にふさわしい観光地づくりに向け、大谷地域全体の観光資源を知ってもらい、楽しく周遊できる仕組みと合わせ、情報提供をはじめ観光客に必要な機能を備えた、大谷の顔となるビクターセンターのような施設の整備も必須になると考えるがどうか。

**答** 世界の大谷にふさわしい観光地づくりに向け、巨大な地下空間をはじめ、貴重な文化財、地底湖クルージングなど地域内に点在する多様な資源の魅力を磨き上げるとともに、地域全体に賑わいを広げて行くことで来訪者が楽しく大谷巡りを出来る空間を創出していく。

また、国内外からの来訪者に情報を発信するビクターセンター機能も併せ持った拠点を設け、大谷での新たな観光スタイルを提案することで、周遊・滞在型の観光地へと転換を図り、何度でも行ってみたくと思える観光地づくりに取り組んでいく。



▲大谷資料館

**その他の質問項目**

- ①中小企業の育成支援②市独自の地域包括ケアシステムの深化・推進③女性雇用創出につながる企業への支援④所有者不明土地の特別措置法案⑤歩きスマホ禁止条例の制定⑥上下水道事業行政⑦小中学校のトイレの洋式化⑧女性消防員増への考え

※1 デスティネーションキャンペーン…Destination(目的地)とCampaign(宣伝)を組み合わせた造語でJRグループと地域が協働で取り組む国内最大規模の観光キャンペーン